



国内最大級の津波が来襲、濁流に呑み込まれた大船渡市街地＝12日午後4時05分

大津波、街を呑む

死者、行方不明者多数 気仙沿岸に壊滅的被害

11日午後2時46分ごろ、三陸沖を震源とするマグニチュード8・8の大地震が発生した。大船渡で震度6弱を記録し、気象庁は本県を含む太平洋沿岸に大津波警報を発令。大船渡で午後3時15分、高さ3・2メートルの津波を観測した。その後、次々と津波が押し寄せ、沿岸部は濁流に呑み込まれた。余震も頻繁に続き、建物の倒壊流出や人的被害も多数。午後10時30分現在、大船渡市で31人、陸前高田市で5人の死亡が確認され、行方不明者も多数出ている。電気、ガスなどライフラインも寸断、各方面に甚大な影響が出ている。今後、被害の拡大が懸念される。

気象庁によると、震源地は牡鹿半島東南東120キロ付近で、震源の深さは20キロ。地震の大きさを示すマグニチュード(M)は国内史上最大級の8・8と推定される。

この大地震を受けて同庁は同日午後2時50分、太平洋沿岸に大津波警報を発令した。

この地震の影響で午後3時15分に、大船渡市赤崎町長崎にある大船渡検潮所で3・2メートルの津波を観測した。

大船渡市での津波は、大船渡湾口防波堤を乗り越え湾内に流入。湾外に逃げようとする漁船や養殖施設などを巻き込んで濁流となっており、押し寄せた。

気仙沿岸では多数の家屋・車両が流され、火災も各地で発生。広

範囲で停電となり、ライフラインはパニック状態となった。

地質津波発生を受け、政府は緊急災害対策本部を官邸で開き、自衛隊を被災地へ派遣し救援活動を行う方針を決定した。

気象庁では、「M8・8は国内観測史上最大級の地震の規模で、今後一カ月程度は余震が続くと見られ、引き続き警戒が必要だ」としている。

大船渡市の午後11時発表によると、児童生徒の安否が確認できていないのは赤崎中全校生徒と綾里中生徒23人。赤崎中は、市役所などからのアクセス道路が寸断されている。それ以外の学校、幼稚園、保育所では児童生徒の無事を確認している。



只出、米崎の両側から津波が押し寄せ、平地に押し寄せた小友町＝12日午後3時40分

るといふ。

11日夜に自衛隊員が市内に到着。12日は交通路確保を優先とし、まず三陸縦貫道や国道45号の復旧活動から入り、次いで主要地方道などを行う。市内ではリアスホールや大船渡地区公民館など、15カ所の避難所に計3966人が避難している。大船渡病院は入院患者

者3日分の食料は確保できているが、職員や避難所にいる住民分は確保できていない。三陸町越喜来のさんりくの園では、40～50人が夏虫のお湯っこに避難しているが、デイサービスを含む利用者の行方不明数は分かっていない。

猪川小や立根小などで炊き出しが行われて

いる。市内の死者は31人で、大船渡病院や大船渡警察署などで遺体を安置している。

陸前高田市では沿岸、平地を中心に市内広範囲が浸水したとみられ、孤立地域がある。小友町で十数人の不明者がいるとの情報があるが、11日午後11時現在、行政などからの情報は入っていない。